

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区

校番27

福山市立駅家南中学校

最終更新日

2021年(令和3年)4月16日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○いずれの学校も、設定された目標の達成に向けて、さまざまな角度から工夫をこらしながら取り組みをされていることが分かった。 ○引き続き生徒一人ひとりに目を向けた質の高い教育を保護者、地域と連携を図るなかで展開していただきたい。 ○目標や評価は大切だが、今一度学校教育とはどうあるべきかを考えていただきたい。	児童生徒の現状 ○落ち着いた生活はできている子どもが多いが、自分から課題を見つけたり、創意工夫して新しいことにチャレンジしたりする態度が、授業の中で十分に育成できているとは言えない状況である。 ○前年度は感染症対策のため地域での活動は大きく制限されてきた。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	コミュニケーション力 協調性・思いやり 駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒 ○「認知のしくみ」から設定したテーマを踏まえた授業を行う ○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる ○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。
---	--	---	---

III 自 校

ミッション 未来・地域から預かった生徒が、故郷に愛着と誇りを持ち、自立して社会に貢献できるよう、励ましながら鍛える。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	問題解決力 コミュニケーション力 協調性 チャレンジ
学校教育目標 自立して 社会に貢献できる 生徒の育成	問題解決 コミュニケーション 協調性 チャレンジ	問題解決 コミュニケーション 協調性 チャレンジ
現 状 生徒アンケート(肯定的解答率 単位%)	問題解決 コミュニケーション 協調性 チャレンジ	問題解決 コミュニケーション 協調性 チャレンジ
授業はよくわかる 85 学校へ行くのは楽しい 78 授業で自分の考えを説明したり書いてまとめたりしている 81 みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくろうとしている 70 授業で友達と話し合ったり自分の考えを深めたりしている 78 今学期図書館を利用した 17	問題解決 コミュニケーション 協調性 チャレンジ	問題解決 コミュニケーション 協調性 チャレンジ
- 日々の授業の中で、子どもたちが自分の意見を説明したり、話し合いをして考えを深めたりする場面が不十分である。 - 生徒は落ち着いて生活しているようにみえるが、学校生活に十分満足しているわけではない。 - 学校図書館の利用が不十分である。	テーマ 内容等 めざす授業の姿	学びのファシリテート 「ファシリテート」を切り口に、日々の授業を「学び」が起きる授業に変えていく ・問いを変える(つなげる、ふかめる、ずらす) ・教師の説明→生徒の活動 ・形態を変える(トップダウン→ボトムアップ) ・ICTを活用する ・目を輝かせて、楽しそうに、教科の内容について考え、発言している。 ・他者との対話を通して、自分の考えを見直したり、新たなことに気付いたりしている。 ・課題を解決するために、既習事項を関連付けて、考えたり、話し合ったりしている。 ・自分の考えを、言葉や数、図、思考ツール等を用いて、筋道を立てて説明している。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	力 評 価	達 成 評 価	総合 評価
5	21世紀型スキル及び倫理観の育成に向け、確かな学力・健やかな体力を身に付けさせる。	★	継続	全国学力・学習状況調査の平均正答率について県平均以上の教科を1教科以上とする。	・「学びの地図」を作成し、生徒が課題を見つけ、学びの振り返りをする事ができるような指導を工夫する。 ・話す、書く活動や話し合いの場面を授業に意識的に取り入れる。	・生徒アンケートの学びに係る質問項目の肯定的評価の割合をすべて80%以上にする。 ・全国学力・学習状況調査(3年生)で、全国平均以上の教科を1教科以上にする。								
			継続	体力・運動能力調査の各項目について県平均以上とする。	・体育や部活動の中で、弱点に特化したトレーニング及び補強運動を継続して行う。	・全国平均を上回る項目を80%以上にする。								
3	幅広い知識や豊かな心を育むために、読書習慣を身に付けさせる。		継続	図書室を活用し、読書に取り組もうとする生徒の意識を醸成する。	・図書室の利用を促進するため、図書室の整備を行う。 ・呼びかけ等を行わせるなど、読書習慣をつけるための、図書委員会の活動を仕組む。	・図書室の利用者数割合を昨年度比+10%以上にする。								
3	子どもに向き合う時間を確保するために、業務の改善を図る。		継続	業務内容の見直しや精選、各業務の適切な分担を行う。	・部活動休養日や定時対校日を実実に実施する。 ・スクールサポートスタッフ等へ計画的に業務依頼を行う。	・時間外勤務の平均時間を前年度比90%以下にする。								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。